

## 赤れんが博物館

### 舞鶴鎮守府開庁120年記念講座・企画展の開催について

・舞鶴鎮守府開庁120年を記念する市民講座と企画展を開催し、市民の皆さんに本市の歴史について理解を深めてもらう。

#### 舞鶴鎮守府開庁120年記念講座

- 1 名称 舞鶴鎮守府開庁120年記念講座
- 2 目的 舞鶴鎮守府開庁120年を記念する市民講座を開催し、市民の皆さんに本市の歴史について理解を深めてもらうとともに、本市に残る近代化遺産への関心を高める。
- 3 主催 舞鶴市（舞鶴市郷土資料館、舞鶴市立赤れんが博物館）
- 4 日時 令和3年9月～12月
- 5 場所 舞鶴赤れんがパーク
- 6 内容
  - (1) 9月18日（土） 14時～15時30分 赤れんがパーク4号棟  
舞鶴工業高等専門学校 准教授 牧野雅司氏  
「鎮守府開庁前後の日本を取り巻く世界情勢について」
  - (2) 10月17日（日） 14時～15時30分 赤れんがパーク4号棟  
京都府立大学 准教授 上杉和央氏  
「鳥瞰図画家吉田初三郎が見た鎮守府のまち」

#### 【お問い合わせ先】

赤れんが博物館：☎ 0773-66-1095、FAX 0773-64-5123  
E-mail: [renga@city.maizuru.lg.jp](mailto:renga@city.maizuru.lg.jp)

(3) 11月23日(火・祝) 14時～15時30分 赤れんがパーク 2号棟

海軍史・海軍料理研究家 高森直史氏

「海軍の食と文化について」

(4) 12月4日(土) 14時～15時30分 赤れんがパーク 2号棟

北翔大学 名誉教授 水野信太郎氏

「舞鶴の赤れんが建造物群の特質について ～世界の常識と舞鶴の異質性～」

7 受講料 無料

8 定員 70人(先着順)。申し込みは前日までに電話(66-1095)で赤れんが博物館へ。

---

## 企画展「舞鶴鎮守府をつくったれんが その故郷をたどる」

### 【1】企画展

1 名称 舞鶴鎮守府開庁120年記念企画展

「舞鶴鎮守府をつくったれんが その故郷をたどる」

2 趣旨 舞鶴鎮守府開庁120年を記念する企画展。舞鶴鎮守府の建造物に使われたれんがの多くは大阪泉南地域で製造されており、各れんが製造会社などを紹介する。また、舞鶴市内のれんが製造所(神崎ホフマン窯・和田のれんが製造所)も併せて紹介する。

3 日時 令和3年9月17日(金)～10月24日(日) 会期中は無休

4 場所 舞鶴市立赤れんが博物館2階 特別展示室

5 入場料 常設展示と共通

一般400円、学生150円

市内在住または在学の学生は入館無料

6 主催 舞鶴市立赤れんが博物館

---

### 【お問い合わせ先】

赤れんが博物館：☎ 0773-66-1095、FAX 0773-64-5123

E-mail: [renga@city.maizuru.lg.jp](mailto:renga@city.maizuru.lg.jp)

7 内 容 展示点数 れんが 17点、拓本 1点

舞鶴市内：JR 白鳥・清道トンネルれんが(岸和田煉瓦製)、  
赤れんが博物館れんが(貝塚煉瓦製)

京都大学農学研究科附属水産実験所れんが 2点(大阪窯業製及び日本煉瓦製)、  
舞鶴赤れんがパーク 3号棟れんが(堺煉瓦製)、  
JR 第一真倉トンネルれんが(日本煉瓦製)

神崎ホフマン窯製れんが、ホフマン窯の投炭口の蓋、ホフマン窯試作花器  
湊十二社れんが造手洗所拓本

舞鶴市外：同志社女子大学旧静和館れんが(京都市・岸和田煉瓦製)、  
旧小泉製麻工場れんが(神戸市・岸和田煉瓦製)、  
テラボウ株式会社れんが(貝塚市・岸和田煉瓦製)、  
湊川隧道内壁使用れんが(神戸市・貝塚煉瓦製)、  
空堀商店街舗装用れんが(大阪市・大阪窯業製)、  
JR 船岡山トンネルれんが(南丹市・堺煉瓦製)、  
京都地方裁判所れんが(京都市・日本煉瓦製)、  
丹治煉瓦製れんが(堺市)

## 【2】主な展示物紹介

### 1 刻印でたどるれんがの故郷

舞鶴市内の建造物や鉄道施設で採取されたれんがを刻印により製造工場ごとに分類すると、ほぼすべて大阪泉州地域の工場で製造されたれんがである。

### 2 関西れんが製造の黎明の地・泉州地域

明治政府が富国強兵・殖産興業の政策を推進し貨幣制度を固めるため、1868(明治元)年に大阪造幣局が起工され、1870(明治3)年には造兵司(後の大阪砲兵工廠)建設と、阪神間鉄道の敷設に着手する。建築材料としてれんがの需要が発生し、その生産を一手に担ったのが泉州地域であった。大正時代から昭和初期、大阪府はれんがの生産個数・生産額とも全国1位、1920(大正9)年当時大阪府下でも、泉州地域の工場で生産価格の80%以上を生産していた。

---

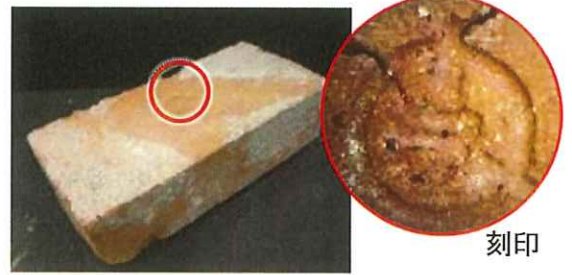
#### 【お問い合わせ先】

赤れんが博物館：☎ 0773-66-1095、FAX 0773-64-5123  
E-mail: [renga@city.maizuru.lg.jp](mailto:renga@city.maizuru.lg.jp)



### (1) 大阪窯業株式会社

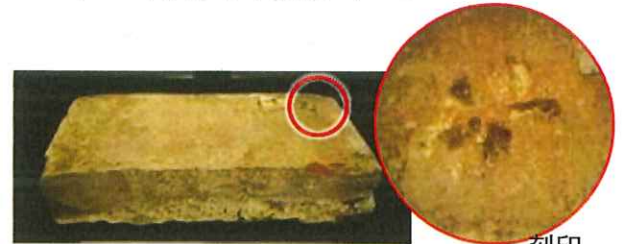
1885(同 18)年 5 月大阪府西成郡にてれんが製造を開始、大阪本社と別に 1896(同 29)年 3 月堺分工場を設け、1899(同 32)年 7 月～1907(同 40)年 4 月まで本社を堺に置いた。関西で最初にホフマン窯を導入、日本で初めて舗装用れんがを開発した。関西随一のれんが製造会社である。



↑京都大学農学研究科附属水産実験所のれんが(旧海軍第三火薬廠長浜工場)  
(1930(昭和 5)年頃竣工)

### (2) 堺煉瓦株式会社

現在の赤れんがパーク 2・3・4 号棟のれんがを製造した堺煉瓦株式会社は、1893(明治 26)年 7 月堺市吾妻橋通で創業。ホフマン窯を有し、海路で大阪、神戸から九州、台湾、朝鮮まで販路を広げたが、利益が安定せず無配当の時期もあり 1919(大正 8)年頃に解散した。



↑舞鶴赤れんがパーク 3 号棟のれんが  
(旧舞鶴海軍軍需部弾丸庫並小銃庫)  
(1902(明治 35)年竣工)

### (3) 日本煉瓦株式会社

明治 29 年 10 月(あるいは同 30 年 6 月)泉南郡舳松町で創業。鉄道工事などに広くれんがを提供し、堺市内のれんが工場としては一番長く昭和 22 年頃まで製造を続けた。そのころには、れんがだけでなく、茶碗、湯飲みも製造していた。



↑JR 舞鶴線第一真倉トンネルのれんが  
(旧官設舞鶴線第一真倉隧道)  
(1903(明治 36)～1904(同 37)年竣工)

### (4) 岸和田煉瓦株式会社

1872(明治 5)年 9 月士族授産の一環として旧岸和田藩士山岡<sup>ただかた</sup>尹方が中心となりれんがを製造・提供したが、一旦途絶えることになる。山岡は新島襄が岸和田で布教の際キリスト教に入信、人々を救い地域の産業を盛んにする目的で 1887(同 20)年第一煉瓦製造会社設立、1893(同 26)年には岸和田煉瓦株式会社と社名を変更する。大阪府下で一番遅く 1988(昭和 63)年頃までれんがの製造を続けた。



↑JR 舞鶴線白鳥・清道トンネルのれんが  
(1904(明治 37)年竣工)

#### 【お問い合わせ先】

赤れんが博物館：☎ 0773-66-1095、FAX 0773-64-5123

E-mail: renga@city.maizuru.lg.jp

#### (5) 貝塚煉瓦株式会社

赤れんが博物館のれんがを製造した貝塚煉瓦は、1890（明治 23）年第一煉瓦製造（後の岸和田煉瓦）貝塚分工場として設立された後、1893（同 26）年に売却され、田端治平が社長を務める貝塚煉瓦（1894（同 27）年株式会社化）となった。その後、貝塚煉瓦株式会社は大阪窯業と合併（1907（同 40）年）して同社貝塚工場となり、舗装用れんがなどを製造した。



↑ 赤れんが博物館のれんが  
（旧舞鶴海軍兵器廠軍需部魚形水雷庫）  
1903（明治 36）年竣工

刻印

### 3 舞鶴鎮守府お膝元のれんが製造

#### (1) 京都竹村丹後製窯所

1897（明治 30）年、京都伏見の山田宗三郎が舞鶴の西神崎に「京都竹村丹後製窯所」を設立。登り窯で軍港建設に必要なれんがを製造した。大正末期に登り窯をホフマン窯に改良した。

1958（昭和 33）年頃れんがの製造を中止したが、明治末から太平洋戦争中にかけて花器の試作や、大正期から瓦を製造するなど生き残りを模索した様子が見えてくる。



↑ 京都竹村丹後製窯所  
（神崎ホフマン窯）

#### (2) 舞鶴市和田地区にあったれんが工場

和田地区に海軍工廠工員宿舎が建設された（1939（昭和 14）年頃）場所にはかつて、れんが工場があり、れんがを船で白杉地区や吉田地区に運んでいたという。そのれんがは油倉庫（燃料等を収納していた倉庫）などに民間で使用されたと思われる。

---

#### 【お問い合わせ先】

赤れんが博物館：☎ 0773-66-1095、FAX 0773-64-5123  
E-mail: [renga@city.maizuru.lg.jp](mailto:renga@city.maizuru.lg.jp)